

最優秀賞

心のとびらを開きましょう

横手市立朝倉小学校

六年 藤倉 邑圭

ある日のことでした。私はあるおばあちゃんと道で出会いました。そのおばあちゃんは、時々見かけるのですが話したことはありませんでした。私は勇気を出して、「こんにちは。」とあいさつをしてみました。すると、おばあちゃんは、「おじょうちゃん、えらいねえ。」と、ほめてくれました。おばあちゃんはつづけて、「わたしは一人暮らしでさみしくてね。あいさつされると、とってもうれしくてね。」と握手してくれました。私は手を痛いほど、ギュッと握られました。うれしい手の感触はしばらく消えませんでした。

私は、「あいさつしてよかったなあ。やっぱりあいさつっていいなあ。」と思いました。私は、「おばあちゃん、ただあいさつを返してくれただけでなく、自分の身の上のことまで話してくれて、私に心を開い

てくれたんだ。」と心が温かくなりました。そして、「あいさつは、心のとびらをノックすることなんだ。」と思いました。

同じ日のことですが、私が元気にあいさつをしても返事を返してくれない人もいました。私は、「どうしてあいさつを返してくれないのだろう。」といやな気分になりました。いやな気分が頭から離れず、「私のあいさつは意味がなかったのかな。」と考えました。

私があいさつをしようとするとき、私の心の中では、「あいさつをして私の気持ちを表したい。」という思いが芽生えます。心のとびらを開くのです。あいさつが返ってこなくて、少しいやな気分になりましたが、私は確かに心のとびらを開いて、その人と関わろうと気持ちを表しました。私があいさつしたことは、返事がなくても意味があったのだと思います。

私は、今まで、「あいさつをしたら、その人が気持ちよくなるだろうな。」、そして、「返ってきたら自分も気持ちいいな。」と考えていました。でも、今は違

います。「あいさつをして自分の気持ちを表そうとすることが一番大切なこと。だから、あいさつが返ってこなくてもあいさつするよ。」と言えます。

私は、今まで、相手が心を動かすことを求めています。あいさつで大切なのは、まず、自分の心を動かすことだと思います。そこから本当のあいさつが生まれると思います。

私のこれからのあいさつは、変わります。あいさつが返ってくるこないを気にせず、心のとびらを自分から開いて笑顔であいさつをしていきます。あいさつが返ってこなくても、私の心は、笑顔で温かです。